

会 議 録	
会 議 名	令和4年度 第2回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和4年10月19日(水) 19:00~20:40
場 所	真庭市役所 本庁舎 2階大会議室
出 席 者	<p><出席委員> 12名 池田委員、江口委員、川崎委員、小谷委員、佐藤委員、 庄司委員、高田委員、額田委員、二若委員、前田委員、 松尾委員、安田委員</p> <p><欠席委員> 2名 内田委員、杉本委員、</p> <p><事務局> 2名 健康福祉部子育て支援課 行田課長 健康福祉部子育て支援課 硯参事</p>
傍 聴 者 数	傍聴者 5人
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議題 (1) 久世地域における園整備のあり方について</p> <p>4 閉 会</p>

1 開 会

(事務局 行田課長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第2回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

本日は、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。

本日の会議の終了時刻は、午後8時30分を目安としておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして佐藤会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(佐藤会長)

～会長挨拶～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。

本日は、委員14名中12名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので真庭市子ども・子育て会議条例の第5条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、会議規則により、以降の進行は佐藤会長をお願いいたします。

3 議 題

(佐藤会長)

議論に入らせていただく前に、先日、市の方で、久世地域の園の保護者を対象に、説明報告会を開催しており、参加された方から様々なご意見をいただいているようです。それでは、事務局から資料について説明をお願いします。

(事務局 硯参事)

～資料1・2により説明～

説明は以上でございます。

(佐藤会長)

今までの説明でもう少しここは聞きたいというところがございますか。私の方から一点なんです、先ほど3歳未満児の利用の話がありましたが、例えば真庭市の把握している0から2歳児に関して、保育所に入れたいけれど入れないという児童はいらっしゃいますか。

(事務局)

毎年、待っていただいている園児さんというのが発生しております、今年度も4月1日時点ではゼロでしたが、月を追うごとに、職場復帰を考えられたりいろいろな事情で、タイミングがちょうど生まれられてから1年間経過したところの月によって、入園されたいというご要望の中で、ご希望される園と受け入れる状況とがなかなか折り合いがつかず、お待ちいただいているということが発生しており、現在も若干そういったことが発生しております。これはどうしようもないというか難しい問題ですが、待機児童ということで十名前半だったと思いますがいっぱいいます。

(佐藤会長)

そういった状況を見ると、3歳未満の受け皿を、もう少し久世地域でしっかりしていくという必要があるかと思われま。十人、二十人、子供たちをどこで受け入れるのかという、現状受け入れることができるのは、久世保育園と久世第二保育園だけですが、久世こども園とか、米来こども園というのは、こども園ではありますが、3歳未満の子供は幼稚園由来ということで受け入れてないという、そこをお願いするのがいいのか、それとももう少し、久世とか久世第二にも入っていただくのがいいのか、その辺のことも検討しなければならないと思います。もう一つは、先ほど事務局から説明があった久世と久世第二が、昭和41年、昭和48年の建築でということで、もう50年経過した建物ですので、その辺の子供の安全ということも考えて、整備の面から考えなくてはならない、そしてもう一つ、これは全国的な課題ですが、小規模園、非常に子どもが少ない園、私は幼児教育が専門ですが、子どもたちが一定程度いる集団で育つということが大事だと思います。ただ、少なければそれだけ手厚いと思われるというお考えもあるとは思いますが、一定程度子どもが集まるということは、子どもの育ちにおいてはすごく重要だと思いますので、その辺のこと、小規模園の扱いをどうするのかというのが議論の中心になろうかと思いますが、何か、皆様方が、これはどうなんだろう、こんなやり方がいいんじゃないかといった妙案がありましたら発言をお願いします。

(池田委員)

今、真庭市のほとんどの園で、入園できるのが、1歳の誕生日を迎えた翌月ということになっています。0歳児を迎える保育園というのが非常に少ない。それはそれで、まずどうなのと思う。みんな生まれる月が3月で一緒だったら、3月に1歳を迎えて4月に入れる、みんな横一線でできますけど、不可能ですよ、それは常識的に。で、私の勤めているところで、私、総務と経理をしてるんです

が、大体スタートが 340 人で子育てまっさかりのお母さんもいっぱいいるんですが、やっぱり、産休育休の手続きというのは非常に頻繁にあります。その中で情報が入ってくるんですが、久世以外の話ですが、真庭市の保育園は 1 歳を過ぎてからの次の月でないと入れないという声をすごく聞くんですよ、じゃあ 0 歳は。育休は、基本的に民間なので 1 歳で終わります。そういう人はそこから働きたくてもまず、もうその時の月によっては定員いっぱい、今言われた待機児童状態です。じゃあそうすると、もともとがおかしくないの、という疑問があるんです。1 歳の次の月からでないといけないのがなんでなんだろうという素朴な疑問があります。

(佐藤会長)

逆に言えば、真庭市の女性の社会進出を考えても、6 ヶ月、8 ヶ月、10 ヶ月、早いところは 3 ヶ月から入れる。そのことに関してはいろいろな賛否両論あるということはあるんですが、そういうことも検討が必要ではないかということですね。

(池田委員)

もっと柔軟に対応していただいてもいいんじゃないかと思います。

(佐藤会長)

そういった意味での整備も必要ではないかということですね。その他質問がございませうでしょうか。

(小谷委員)

1 歳になった翌月から入るってということで、さっき仕方がないと言ってたじゃないですか。その、仕方がないと思われる考えは、なんでそういう風な言い方にされたんですかね。こっちは働きたくて、早い人で 1 か月か 2 か月から働きたいんだけど、保育園が 1 歳の翌月からでないと入園できないから、仕方なく見てる。収入が必要だけど、仕方なくじゃないですか。でもそれを、真庭市の方から、入れないのは仕方ないという言い方をされたっていうのは、どういう考えでその言い方をされたのか聞きたいです。

(事務局)

仕方がないというのは語弊があったと思います。受け入れるための設備面であるとか、職員の確保の面だとかが大きな課題です。今の園の中では、ごく一部の園で、低月齢の受け入れというのをさせていただいている園もありますが、す

すべての園では態勢が整えられていません。今の体制で言うところで仕方がないという言い方に語弊があったかもしれませんが、そのままでもいいということではなく、現状としての受け止めとしては態勢が整えられていないという意味で申し上げたということをご理解いただけたらと思います。

(小谷委員)

今物価が上がっているじゃないですか。家庭内でも生活が苦しかったりとかする中で、今後、0歳から、半年でも3か月からでも、受け入れてもらえるような形づくりは進んでいくんでしょうか。それとも今のままでいい、で止まっているのか。希望が持てないというか、これから先、子どもが大きくなるにつれ、今と同じように物価が上がってくる中で、生活はどうなるんだろうって今の状態ですごく不安で、でも、受け入れてもらうところがなくて、真庭市も、先に進まないというか、真庭市だけじゃないんですけど、現状維持で満足されているのかなと心配なんですけど、そこらへんはどうですか。

(佐藤会長)

それは満足してらっしゃらないのでこの会議にかけているのだと思うんです。今のようにご発言いただくことによって、真庭市も十分理解をいただいていますし、この会議ですべてが決められるわけではないんですが、各委員の皆様からそういう意見があったということを実庭市の担当の方が吸い上げてくださって、今後の園の整備の中では、例えば6か月から入れる園を増やしましょうとかといったことを検討していただける場であると思いますが、いかがですか。

(事務局)

本当にそういったご意見をいただける場だと思っています。これで満足とは言えない状況だと私たちは思っています。

(小谷委員)

先に進めてもらえるような考えはありますか。

(事務局)

今せっかくご意見もいただいていますし、そういったご意見を頂戴したことはしっかりと受け止めたいと思います。ただ今回は何もかもということがなかなか難しいので、特に今年度に関しては、久世地域をということで議論を進めていただきますけれども、やはり、市全体のことも考えていかななくてはいけない。ほんとに待ったなしで同時並行でという話もあるかもしれませんが、少し整理

しながらということが必要だと思います。この話は、久世地域だけではなくて市全体の体制の問題であり、今後もその検討の中で久世以外にも園の体制をどのように整備していくかということの、大きな話だと思いますので、保護者さんからのご意見としてしっかり受け止めたいと思います。ここの場で必ずこれ進めるとか保証するような話は致しかねますけど、今ご意見をいただいたことはしっかりと受け止めて記録をして今後も引き継いで検討していく材料とはさせていただきます。

(小谷委員)

検討します、で止まっている気がしてそれが今の子育て世代の親からしたらすごく不安で。

(佐藤会長)

今の子育て世帯にとっては困る問題ですので、そういったところを早め早めに、来年からでも少しでも枠が広がるような検討をしてくださいというご意見ですね。

(小谷委員)

検討は無駄な時間だと思うので。

(佐藤会長)

それはそうなれば、予算が必要だったりとか、保育士が必要だったり、施設整備、法律で決められてますので、それがクリアできるのかどうかということを含めて考えて、なるべく早くに話を進めて、久世だけではなくて、真庭市全体に広がっていくような流れだと認識しています。

(池田委員)

資料で説明があったように、3歳児からの保育園の利用率というのは確かに非常に高いです。では、この0、1、2歳児の利用率が低いというのが、これは、利用したくてもできない結果のこの数値なのかというふうに見るかによって、全く変わってくるんじゃないかなと思います。久世は基本的に3歳にならないと近くの希望する保育園がないとか、それまでは、お母さんが仕事をやめてでも3歳までは子どもを家で見ても、3歳になって保育園に預けられるようになったときにまた仕事を見つけようかという方もおられるんじゃないかなあと数字からそう感じました。いわゆる施設基準を満たさないから、久世ではこの2園と愛慈園以外は0歳児の保育の受け入れができないのか、または、幼稚園がこども

園になったからか、どういう理由で0、1、2歳児を受け入れられないというのか、全く違った話だと思います。新しい園もいいですが、今ある園の今の子どもの受け入れ態勢というのを、いかにニーズに合った形で進めていくのかというのを教えてほしいところです。1歳2歳の子どもがいても、十分受け入れてくれる態勢がある地域だったら安心して出れます。やはりそこが一番にあるんじゃないかなと思います

(佐藤会長)

先ほど事務局が説明のとおり、ある程度の待機児童として受け入れられてない児童がいるということは、それを受け入れられるような体制を来年度くらいからつくっていく、そのためにはどうしなければいけないのか、久世と久世第二で難しいのであれば、久世こども園とか米来こども園の方で、空き教室とかそういうところがあって0、1、2歳児を受け入れられる可能性があるか早急に検討できると思いますので、それを園整備の中に含めていただいて、総合的に話を進めていただくという方向が必要だと思っています。

(川崎委員)

昨年度まで久世保育園に勤めておりました。この資料を見ていただいたとおり、運動会とか発表会は自園でできていません。発表会ができないイコール遊戯室がないということになります。現在、遊戯室を二つに分けて子どもを受け入れている状態です。第二保育園も同じ状況です。運動会ができないのは、園庭が狭いからということになります。というのも、園庭にCLT園舎を建てて子どもの受入を行っています。久世保育園については、現在、定員を超えた受入を行っています。今後、3歳未満児の受入は今以上にはできない状態です。

(佐藤会長)

広さ的にも第二の方はいっぱいいっぱい、実質的には受け入れが子どもの安全上難しいと思うんですが、となると何を何か考えていかなければいけないということになるかと思います。あと、極端な話、草加部幼稚園がそのまま幼稚園でいいのかとか、そういったことも併せて、先ほど言った久世こども園と米来こども園も3歳未満児を受け入れられるスペースがあるのであれば、そこを0、1、2歳児の子どもたちを受け入れることによって若干久世と第二の方も3歳未満児の比重を減らして久世地域で、分散されるかどうか分からないですが、お住いの関係や仕事の関係で、そういったことを検討していく必要がある、という方向でよろしいですかね。

この会議は、意見を言わせていただいて、それを市の方が聞いて、市の方からこ

ういう案はどうだろうかというのを次の会議で出されると認識しておりますので、もっとこういうこともできるんじゃないか、こんなこともできるんじゃないか、ここはこんな風にした方がいいんじゃないのかといったご意見をいろいろお伝えいただいて、できるとかできないとか言えませんので、こんな考え方もあるよということでもいろいろご意見を賜りたいと思います。

(前田委員)

今回、久世地域の保育についての話なんですけど、これは今になって始まったことではなく、そもそものスタートは老朽化によるものだと聞いています。ただその対応はいつからされていたんですかというところだと昨年度は答えられていました。私の中では、この会議自体が民間事業者を受け入れるためのテンプレートではないのかということも未だに思います。一生懸命していただいていたと思うんですが、なぜ対応が、民間を受け入れることがスタートになっていて、それまでは何だったのかと疑問に思います。先週あった説明会、ショックですが、あまりに出席者が少ない。どれだけの保護者がこの問題について大事に思っているのか。この会議に来られている方と保護者の方と若干意識が違うのかなと感じます。久世地域だけのことでなく、ほかの地域のことも同時進行していってないと、久世が仮に潤ったとして、今度はほかのところ、もっと子どもの少ないところは後回しになるのではと危惧します。何か災害があったときとか、そういうときに向けての議論を、これが終わって次を考えるのではなく、せつかくこういう会議があるのだから、同時に考えていくべきなのではと思います。

(佐藤会長)

そういったご意見、前回の会議でも出てきたと思います。なかなか、本当は全般的に進めていけばと思いますが、とりあえず一つ一つやっていかななくてはいけない。今回も、先ほど月齢の前倒しとか、そういったことが広がっていくというのが、これは地域の特性も全然違います。久世地域に関しては、久世地域といってもこれだけ家があって定員を実は満たしていない。久世保育園だけが定員を超過していて、あとの園が満たしていないということになれば、久世地域もたぶん定員を満たしていないと判断されますので、岡山県の子ども子育て会議に例として上がってくれば、真庭市は現状でいいね、というような見え方にもなりますし、その辺が正直難しいなあということは思いますので、こういったところでいろんなご意見をいただいて、それをまた全市的にそういったことが一つの足掛かり、きっかけにさせていただければいいかと思いますけれども。

(松尾委員)

今、久世は人口がどんどん増えていると言われていて、真庭市の中で久世地区を手厚くこれからしていくという方針ですが、真庭市の久世以外の地域では3人が動いたら園はなくなってしまうところもあります。そのような地域がどんどん出てくると、真庭市のこども園、それにつながる小学校、中学校もどんどんなくなって、久世地域、あるいは落合地域に集中してしまうことは非常に危惧するところで、方向性としては全体的に市として、考えていかなければいけないと思います。日本は教育にお金をかけていない状況がこういうことをきっかけに変わっていければいいなと思います。

(佐藤会長)

おっしゃられるとおりで、日本は先進国の中で子どもにかかるお金が少ない国ですが、若い子育て世代は、政治に関心が薄いという話を聞くこともあります。久世地域を充実させて、3歳未満児がしっかり預かれるということになれば、周辺のご家庭がまた久世に集まってしまって、また周辺が若干疲弊をするとか寂しくなるというかそういったことも検討していかなければならないといったご意見もあろうかと思います。

(小谷委員)

今の保護者が説明を聞いているが、今の親は、次を産もうと思わないと、卒園したら関係ない話になって、たぶん興味がない人もいると思う。なので、例えば、これから入園させようと思っている親も一緒に、説明会を聞いてもらえば、下の世代の親が、そこに興味を持ってくれたりとか、そういう考えなんだっていうのをわかる機会にならないかと思うんですが、どうですか。

(佐藤会長)

年長さんはもう私たち関係ない、2年後、3年後、子どもを産んでと思った保護者とかそういった方に対しても門戸を開けば、もう少し興味がわいて意見が出るのではないかということですね。

(事務局)

おっしゃられるとおり今の世代だけでなくご結婚なさって子どもを、というご予定がある方々の意見も大切で、どのくらい呼びかけをしていくのかだと思います。ただ今回は、直接保護者でない傍聴者も何名かおられてましたが、全体として参加者が少なかったのが基本的に、やはりもっと興味を持っていただけたり、参加いただけるような努力が必要だというのは思っております。

(前田委員)

まず久世保育園がどうなってほしいか、下は0歳から上は5歳児までいますので、逆にこの先まだ保育園に通わせたい方たちが、どうなるのかを一番知りたいから意見があるのかなと思うんですけど、久世保育園がどうなるのかという、これに対しての答えは出ているんでしょうか。

(事務局)

今その答えが出せていないという状況です。また、今回の説明会の内容はかなりのボリュームになりますので、これは近々ホームページに掲載したいと思ってますし、久世の保護者さんには、来られてない方への資料の提供であるとか、ホームページをご覧くださいというご案内をさせていただけたらと思っています。ご質問の、久世保育園については、単に久世保育園をどうするかという議論でなく、久世地域をどうしていくか、老朽化している第二保育園であるとか、先ほど会長もおっしゃった小規模な園であるとか、その他の園も含めて、その中でこういった形がいいのかということを見出していく必要があると考えています。

(前田委員)

新しいこども園の事業者の提案内容は、夢のある園だと思うので人の取り合いになる可能性があると思います。新しい園に入園できなかった人は、他の園に通うわけですが、市として、バランスとっていいのかわかりませんが、園の良さっていうのを、公立の園にも、同じようなサービスを求めているのか、それともこれは、民間だから違うということか、でも、保育料は公立と同じだと、そうすると一極集中的に私立に来てしまうと、先生方のモチベーションとか、子どもたちの発育にかかわるバランスとか、そういうものの対応は、今後真庭市としては、どういう風に思われているのか、でも、間違いなくそれは出てくると思うんです。例えば、食の話にしても、食に興味を持てるよう調理の様子が見える構造、そういう風なとてもいい食育の表現をされています。実際今、私の子ども久世こども園に通っていますが、給食に関しては遷喬小学校から来ます。私はPTA会長の時に、給食評議員もしていたので、遷喬小学校の給食の先生に聞きました。6年生の食べるものと、3歳が食べるものとは、やっぱり味覚と、材料の大きさも違うと思いますが、これに対してはどういう対応をさせていただけるんですかと。できないと言われました。ですから、私も目で見たことはないんですが、細かく材料を切ったりとか、園の現場でそういうことをされています。民間でこれだけの表現をされている園と、久世こども園だけを比べても、バランスが悪いのではないかと思います。本来、こども園は給食室を併設しなくてははいけないということじゃなかったですか。

(佐藤会長)

基本的には。搬入も可です。

(前田委員)

給食室がない状態と、民間のとても素敵な夢のある内容とでは、やはりちょっとそこで差がついてしまう、そのことをどういう風に考えるのかということを書いてみたいと思います。

(佐藤会長)

逆に、今お話を聞いて思ったのは、自園給食を持ってない園が複数ありますよね。各園ですればベストなんでしょうけど、難しければセンター方式のように、一つこども用の給食施設を作ったら小学校のようにできるかと思います。

(松尾委員)

私が久世中学校に赴任してた頃は、それぞれ別々に作られとったのが今の状況になっているんですから。今年落合の学校のすべてセンターからになっていますが、真庭市の考え方で言うと難しいかなと思います。

(佐藤会長)

先ほど言いましたが、幼稚園保育所のための給食施設をどこか一つにまとめて、作るという案も、検討していただけるかどうかわかりませんが、費用的に無理だとか、スペース的に無理だとか言われるかもわかりませんが、そういった意見を言うことは許されると思うんですけど。

(前田委員)

例えば、土曜保育を希望するにも提出物が多いとか、毎週土曜日預けたいけど毎回同じ書類を提出したという話を去年も保護者の方から聞いたり、何かそういうので、ちょっとしたことかもしれませんが、それって結構保護者にとっても大変なことなんです。そういうところが民間になれば、良くなるとか、直接の保育に関わる運営そのものの考え方が、民間と公営と違って当たり前だと思うんです。でも、その差がありすぎると、久世地域だけそこに差が出てしまうと、ますます久世が造成が増えていく。市内での過疎地域、そこを突き詰めていくと結局市民の皆さんの負担にしかならない。ここに通えた人はラッキーというか、それがとんでもなくいい子になるかどうかわかりませんが、そういう風な違いが起きてしまう、というのがちょっと怖いなど。今まで同じレベルで、公立でやっ

てきていて、明らかに公立より飛び越えたような良さを持った園がやってくる。わざわざ久世のど真ん中、北町公園の、わたしと娘と息子の憩いの場をつぶしてまで、作る。確かここは、避難場所でもあり、避難の時には保育サービスの継続がある。それはもちろんありがたいことですが、そもそもの考えとして、ここ2年程、スタートラインが、公立と民間とは全然違うんで、何かこう、イメージ的に良いことを言ってここでやらしてくださいという風にしか。何か、話をしていく上での流れがつかめない。スタートがなかなか見えないというのがあるんじゃないかと思ってしまいます。

(佐藤会長)

個人的な意見、感想なんですけど、たぶん民間は苦労される、集まらないと思います。全国の状況は、保育所でいうと公立と私立が半々くらい、幼稚園に関しては8割が私立です。岡山はすごく特異なところで公立が断トツに強い文化なんです。そこに民間が入ってきたらたぶん最初はすごく苦労されて、児童集めに苦労されるんじゃないかと思っています。以前お話ししましたように、真庭の保育はすごくいい保育をされています。民間はすごく苦労をされて、そっちの方を個人的に心配をしているところです。ですから本当にその一時預かりとか、土曜保育のニーズが高い方はそっちに行かれるんでしょうし、多くの方はたぶん公立の方に行かれるんじゃないか、私は民間の運営の方を心配しなきゃいけないんじゃないかという感覚でいます。それが10年後20年後はわかりません。そこに根付いて、どうなるかわかりませんが、最初数年は民間は苦労されるという風に、わかりませんが、そんな感覚であります。そのくらい真庭の保育はしっかりしているなと思っておりますが、蓋を開ければ前田委員のおっしゃるとおりになっているかもわかりません。でも逆に言えば、そこに入れなくても、真庭の公立園のどこに行っても全然素晴らしい保育をしていらっしゃるんで、心配されることはないと思います。

真庭市を紹介したぐらいすごくいい保育をしていらっしゃるというのは以前から感じておりましたので。どの市町村を見ても、公立と私立が喧嘩をしているところはなくて、お互いに補完しながらやっていくというのが圧倒的なんです。ですからそういった意味で、真庭市に今回ご縁があったたまたま来られる、新しい園と協調していただけるというのは信じています。

新しい園の定員は、何人でしたか。

(事務局)

122人です。

(佐藤会長)

今定員を満たしていない上に、122の純増、県は嫌な顔をすると思うんですよ。そういった意味でも、もう少し真庭市の久世地域の中でも、調整をして、という必要があるんじゃないか、そこでの検討をしていかななくてはいけないんじゃないかなというのは思っております。

(池田委員)

建て替えましょうよ。久世保育園と第二保育園。もう49歳と56歳ですよ。前回は私発言させてもらったと思うんですけど、検討だけでなくもう本当に。老朽化云々ではなく安全のために建て替えましょうよ。今年も冬は寒くなるっていうじゃないですか。子どもたちにとってかわいそうですよ。それとも、近くの北町公園に立つから、もう手は加えなくてもいいとかそんな考えはないですよ。

(事務局)

手を加えなくてもいいとかそんなことは一切思っておりませんし、結論として建て替えという話、当然あると思います。我々も建て替えにあたって、ではどういう形の規模感であったり設備であったり、先ほど会長がおっしゃった、例えば給食の問題なども含めて、新しく建て替えようとした場合のいろいろな考え方ができると思っています。そしてここでの意見も参考にさせていただきながら、やはり公立の園ですので、最後の決断は市のことだと思っております。ただ、単純に市側が勝手に決めてしまうというより、こういった場でのご意見を大切にしながら、できれば、具体的な案も複数提示して、それに対して皆さんのご意見がいただけるような場を持たせていただけたらありがたいと思います。それから建て替えるまででも、何も手を施さないというようなつもりは一切ございませんので、当然必要な設備の修繕的なものについては、できる限りは園とも良くコミュニケーションを図りながら対応していく必要があると思っております。

(池田委員)

考えるばかりしてたら更に建物は歳をとります。お願いします、急いでください。

(庄司委員)

私立参入はいいと思いますし、うちはサポートあいでも一時預かりもしていますし、やっぱり園の休みのとき、時間も長くしてるんですけど、それではもう追いついていけない状態で、そういう私立ができれば、お母さんたちも安心して利用

できると思います。でも、じゃあ、久世保育園はどうなるんだろうというのは、とっても心配で、久世の方たちもこれから預けられる方も、心配されているんじゃないかなと思います。

(佐藤会長)

今回は、しっかりと各委員の意見を聞かせていただいて、それをもとに、市の方から複数案提案するようなことをお考えのようなので、自由に議論していただくようにということで、いろいろ振らせてもらい、ご意見を聴取しているところです。今回の意見をもとに、市の方が、現実可能な提案を次回に、それをまた検討して、残念ながら、この会議は決定をする場ではないので、いろんなそういった保護者の方や地域の方がこんなご意見があってということになるかと思いますが、そういう認識でよろしいですか。

(事務局)

会長がおっしゃった通りです。もちろん制度的にどうしても皆さんの意見が、そのままを取り入れられない部分もあるかと思いますが、できるだけ皆さんのご意見を踏まえながら複数案をお示しできる機会を持たせていただけたらと思います。

(佐藤会長)

例えば、久世と久世第二を建て替えるとなつて、給食施設も作り、子育て支援関係になるようなスペースも作り、夢のような話もいいんだと思うんですね。そういったことをご意見いただいて、それをできることできないこと、予算のこともあるでしょうし、将来の見通しもあるでしょうし、そういったことを勘案をして、意見を聴かせてくださいという認識を個人的にはしているところです。

(江口委員)

今日は皆さんの意見をしっかりとお聞きすることができ、様々なご意見をいただいて非常にありがたかったと思います。これを検討だけで終わらないように、ある程度形を示していき、現状の課題を解決する形はどういう形なのかまた次回以降ご意見をいただきたいと思います。公立は公立で頑張っている中で、園の先生方が頑張っているんだというご意見をいただいたことは、我々としては大変うれしく感じています。だからこそ、民間ができたから解決ということではなく、ここから公立園側をしっかりと老朽化のことだけではなく、受入れの問題、処遇の問題などいろいろ課題もあり、一発で解決というわけにはいかないですが、ある程度見通しをもって計画的に実行していくことが必要だ

と思います。いろいろ案があったかと思いますが、複数案としてお示しし、次回以降具体的なご議論をいただくことで、市として最終的な方向性を示すための参考にさせていただきたいと思います。

(佐藤会長)

簡単に振り返りますと、受け入れる月齢の変更から3歳未満児の受け入れのことですとか、給食の話も出ましたし、老朽化の施設の建て替えのお話もありました。そのほか、久世地域だけでなく真庭市全体のことについてもご意見をいただいていますし、今実際に困っている保護者もいるので、スピード感をもって検討だけでなく、前に進めるようにというようなご意見が出ました。私は真庭市はすごく丁寧だと思っています。私はいろんな県の自治体の会長などをやらしてもらっていますが、ある程度、話のゴール地点が決まっていて、話が進んで行くのが常なんです。なかなかフリートークというか、各委員の意見を聴取してくれている市町村は実際少ないと思います。いろんなほかの会議に出ています、本当に真庭市は、子どものことを真剣に考える所だと。地域のこと考える、住民の方からすれば、もどかしいかもわかりませんが、そういったことを真剣にしているんだと感じました。今回いただきました意見をもとに、次回またより議論を深めていければと思います。よろしいでしょうか。

それでは次回の会議も引き続き久世地域における園整備の在り方についてを議題に議論を進めて、それをもとに、真庭市全体の整備の方も考えていきたいと思えます。本日の議事は以上でございます。皆様のおかげをもちまして活発な意見が出たと思えます。委員の皆様には次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

4 閉会

(事務局)

委員の皆様、本当に今日はありがとうございました。閉会ということで、これで閉じさせていただけたらと思います。本日副会長の杉本委員がご欠席ですので、会長に閉会のご挨拶をお願いします。

(佐藤会長)

家に帰るまでが子ども子育て会議だと思えますので、安全にゆっくり帰りたいと思えます。委員の方も気を付けてお帰りいただければと思います。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。本当に貴重なお時間、長時間にわたってありがとうございました。どうかお気を付けてお帰りください。